

科名 血液内科  
 対象疾患名 再発・難治性の多発性骨髄腫  
 プロトコール名 ERd 2クール目

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	22	...	28
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓		↓		↓		↓		
2	点滴中	側管	デキサート注 ファモチジン注 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	30分かけて 投与終了後、前処置薬内服し、 ルートキープにて45分休薬	↓		↓		↓		↓		
45分休薬														
3	点滴注	側管	エムプリシティ 注射用水 生理食塩液	10mg/kg 13mL 250mL	45分前までに前処置薬を内服し ていることを確認 フィルター付きルート使用 体重50kg未満は希釈液150mL 50-90kgは250mL 90kg以上は350mL	↓		↓		↓		↓		
	経口		レナリドミド	25mg/body										d1~d21
	経口		デキサメサゾン	28mg/body	エムプリシティ投与 3-24時間前	↓		↓		↓		↓		

★1クール=28日

~MEMO~

催吐リスク2(10%以上30%未満)

フィルター付き(回路名:JY-PF340P52)を使用

- ・妊婦・妊娠の可能性のある患者には禁忌
- ・必ずレナリドミド、デキサメサゾンと併用して使用すること。

経口でレナリドミド: day1-21投与、7日間休薬、デキサメサゾン: 経口で28mgを day1,8,15,22 に投与。

《インフュージョンリアクション対策》

- ・前投薬(デキサート、ファモチジン)投与終了後、アセトアミノフェン0.5g/回、ホパラミン(2)1T/回を内服し、ルートキープにて45分休薬
- ・エムプリシティ: 0.5mL/minの投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は5mL/minを超えないこと。

1クール目 day1: 投与開始0-30分(0.5mL/min)→30-60分(1mL/min)→60分以降(2mL/min)

1クール目 day8: 投与開始0-30分(3mL/min)→30分以降(4mL/min)

1クール目 day15以降: 投与開始~(5mL/min)

- ・エムプリシティ調整方法: 300mgの製剤の場合は13mL、400mgの製剤の場合は17mLの注射用水で溶解し、25mg/mLの濃度とした後、体重50kg未満は150mL、50-90kgは250mL、90kg以上は350mLの生食又は5%ブドウ糖液で希釈する。